住家1085棟が浸水

阿武隈川の越水により浸水した和田・小作田・市野関地区。写真中央が小作田橋（10月13日・午前）　提供：株式会社スペースワン

台風第19号が、10月12日から13日にかけて東日本を直撃。本市でも阿武隈川や釈迦堂川流域を中心に、住家の床上・床下浸水をはじめ、農業、商工業関連などで甚大な被害が発生しました。今月号では、台風第19号による被害状況（11月20日現在）などを、昭和61年の「8・5水害」との比較を交えお知らせします。

阿武隈川の水位は過去最高の9・61メートルを観測

12日の午前8時から13日の午前1時までの17時間に降り続いた総雨量は、368・5ミリを観測しました。

昭和61年に発生した「8・5水害」では、2日間での総雨量241・5ミリに対し、今回は、短時間の記録的な大雨となり、阿武隈川で過去最高水位となる9・61メートル（はん濫危険水位7・70メートル）、釈迦堂川でも6・77メートル（同5・70メートル）の水位を観測しました。

市内各所で河川の越水や内水はん濫による浸水被害が発生し、1085棟（1571世帯）の住家が床上・床下浸水に見舞われ、家屋損壊などの甚大な被害により、多くの市民が被災しました（雨量・水位、被害等の状況は、3ページのグラフ・表のとおり）。

●り災証明書の交付件数

	世帯数
全壊	180
大規模半壊	294
半壊	568
一部損壊	529
計	1,571

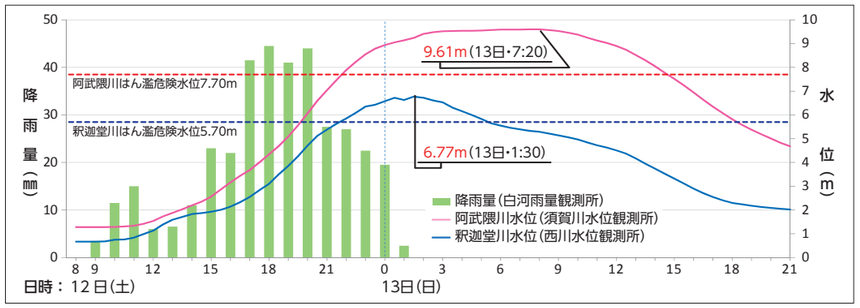
農業・土木関連で26億円超の被害

農業・商工業関連においても甚大な被害が生じ、市民生活をはじめ経済活動にも深刻な影響を及ぼしています。

また、市道や上下水道などでも多くの施設が被災し、農業・土木関連などの被害総額は26億円を超え、「8・5水害」の被害総額約18億円を大きく上回っています（調査中の商工業関連を除く）。

釈迦堂川の内水はん濫により浸水した館取町内。写真中央が西川中央公園（10月13日・午前）　提供：株式会社スペースワン

17時間に総雨量368.5ミリの大雨



土木関連被害5億円超

農業関連被害21億円超

●被害等の状況

（11月20日現在）

		台風第19号災害		S61.8.5水害	
日本上陸直前の勢力		955hpa		980hpa	
総雨量（白河雨量観測所）		368.5mm/17時間		241.5mm/2日	
阿武隈川水位（須賀川水位観測所）		9.61m		8.55m	
釈迦堂川水位（西川水位観測所）		6.77m		7.97m（※）	
区分	被害状況等	件数等	損害額（千円）	件数等	損害額（千円）
住家	床上浸水	875棟	－	293棟	－
	床下浸水	210棟	－	126棟	－
避難所	最大開設数	21カ所	－	8カ所	－
	最大人数	1,053人	－	59人	－
土木関連 道路	のり面、路面損傷等	205カ所	210,650	281カ所	260,945
土木関連 河川	護岸洗掘等	46カ所	64,680	19カ所	
土木関連 公園	土砂堆積、浸水破損	6カ所	6,850	－	
土木関連 上下水道等	浸水破損等	6カ所	254,640	－	－
土木関連 計		263カ所	536,820	300カ所	260,945
農業関連 農業施設	農道、水路、堰等	608カ所	1,802,390	65カ所	86,600
農業関連 林道	のり面、路面損傷等	18路線	68,120	－	－
農業関連 農作物	米、野菜、果樹等	210.47ha	270,008	858ha	609,015
農業関連 計		－	2,140,518	－	695,615
商工業関連	浸水被害等	255件	調査中	85件	758,283
その他		調査中		－	38,125
合　計		－	2,677,338	－	1,752,968

※観測場所が変更のため参考データ

災害ボランティアなどが復旧を後押し

災害ボランティア　県内外から延べ1149人（11月20日現在）が本市を訪れ、被災住宅での家財の運び出しや泥上げなどの支援をいただいています。

支援自治体など　大阪市、天栄村、昭和村などから職員を派遣いただき、被災住家の消毒や、り災状況調査などの支援がありました。

また、災害協定を結んでいる自治体や企業などからも、物資の提供や応援を受けています。

災害ごみの収集　市一般廃棄物収集運搬委託業者、市建設業者協議会、陸上自衛隊の協力により、自宅前まで収集車が巡回し、災害ごみの収集作業を進めました。

住家の「り災証明書」は申請なしで交付

被災者の負担を軽減するため、申請や立ち会いなしで市が被災地域を全面的に調査し、11月11日以降、順次「り災証明書」を自宅へ郵送しました。

1日も早い生活再建へ

市では、被災者の生活再建のため、証明書の再発行、被害認定の再調査、個人市県民税等の減免、住宅の応急修理などの申請・相談を受け付けています。

今回の災害から1日も早く安定した生活を取り戻すことができるよう、全力を挙げて復旧と支援に取り組んでいます。

また、国・県などに対し、東日本大震災と同様の支援対応を強く要望しています。

早目の避難が命を守る

台風などは、襲来時期や規模をある程度予測することができます。

過去の経験にとらわれず、テレビ、ラジオ、市防災行政無線などで最新の情報を収集し、避難勧告などが発令されたら早目に避難し、命を守る行動を取りましょう。

ボランティアの声

生活再建のために力の限り活動

京都府京都市
南沢　明（あきら）さん

台風第19号の被害状況をテレビやインターネットで知り、「何か被災地の力になりたい」と思い、10月29日に京都を出発しました。

長野県の被災地で活動した後、車で寝泊まりしながら、11月9日に須賀川へ着きました。

被災地では、他のボランティアと協力して活動したり、被災者の方から「ありがとう」と感謝の言葉をもらったりするなど、かけがえのない経験をしました。

微力ではありますが、被災された方々の1日も早い生活再建のために、力の限り活動したいと思います。

被災者の声

あっという間に1階が浸水

中宿
渡邉　マサ さん

「前回も玄関までだったから避難しなくても大丈夫だろう」と、今回の台風も完全に油断していました。

早目に夕食を済ませ、いつもより遅い午後11時に床に就きました。ふと寝返りを打ったとき、手に冷たい感触があり飛び起きました。

しかし、避難するにも真っ暗で、水はあっという間に迫ってきています。もう2階に逃げることしかできず、不安な一夜を過ごしました。

翌日、ヘリコプターで救助され、命を守るための早目の避難が重要だと思いました。こんな怖い思いは、もうこりごりです。

防災行政無線音声ガイドサービス
☎(63)8330

電話を掛けると、自動で音声が再生されます(直近の放送内容のみ)。聞き取れなかったときなどに、ご利用ください。

①自衛隊による災害ごみの収集　②写真家の内堀タケシさんが被災した児童にランドセルを贈呈　③大阪府大阪市の職員の協力による、り災状況調査　④橋本市長が赤羽国土交通大臣に被害状況を説明(浜尾遊水地)　⑤市建設業者協議会による泥の撤去作業　⑥オリンピアンの西内洋行さんと井上智裕さんによる円谷幸吉メモリアルホールの復旧支援